

16年

11月1日 上司が

11月分.

鬼と存じぬば 部下は動かず

上記のタイトルは 染谷和己氏の本が借用しました。私達の会社では毎年10月が読書月で全員が読書感想文を書き提出することに存っています。入社3年以内の者は自分で選ばせ、それ以外の者は染谷さんの本を指定しました。私がこの本を選んだ理由は、会社の人材育成にあります。当然、トップである私自身が一番人商として、リーダーとして成長しなければなりません。本を読み、人の話も聞き、考え、行動して経営理念を実現するために人一倍努力しなければなりません。しかし組織が大きくなるに従って、人材の育成が急務に存ってきたからです。私には幸運なことに吉田部長という片腕がいて、私以上に人を育てる努力をしてくれています。しかし、それに続く人材が育たないと、100人以上の組織に存たときに、商品力、サービス力が維持できないうからです。100人以上の組織では、会社の上下関係をほきりさせ、指揮命令により動く集団。上司は、部下に愛されるより、恐れられる存在に存じぬば人は育たないので存かと思っています。上司が部下を叱れなり、叱ると仲間はずれに存る。人間関係が悪くなると思っている上司が多いため、叱りなくて、説得しおとする。会社側の立場で存く、自分個人の立場で話をする。だから物事が徹底できなり。会社はだんたん、礼儀とか規律の存い会社になり、業績が悪化し、社員と会社が不幸に存る。

中小企業こそ立派な社員のリある立派な会社になじ存なければなりません。それには、社員教育が是非とも必要。トップの意識を変え、管理職の意識がかわり存ければ社員は変わります。会社に対して責任、義務を果たすこととは、会社をつぶさない、会社を成長させ、社員と家族を守ることです。この目的のために、会社は利益を出し、人間性を高める人材の育成が必要と思っっています。ですが、管理職を育てる。今の当事務所の規模では、上司が鬼と存ることが部下を育てる一番の方法と確信しているからです。この本を選びました。

外から見てもよい会社。すじい会社はどこが違うか。10月20日大阪のソツカールトンホテルに泊まりました。部屋へ入ると机の上に「どうもこの夜が家へようこそ。楽しいひとときをお過ごし下さりませ。」というメッセージが置いてあり、ホテルも立派な調度品、絵等の設備でただひっくり感動しました。一番すじいのは、人間です。台風23号がすおと。その時大阪上陸、私はタクシーでホテル到着。小さい折りたたみの傘をタクシーに忘れましたが、ドアボーイの方がタクシーを点検し、私に届けてくれました。両日には傘を忘れるタクシーの中で点検する。あたりまえでは存いので感動しました。ではどうしたじ常にお客様の立場で考え、行動できる社員、会社になるが、まず基本が①規律、礼儀の訓練②プロ意識の教育。そして③自分がお客様のため、会社のために何か出来るかということをおこなうことが出来る訓練が是非必要です。この本を読んで「実践できる素直なリーダー」意識の高い管理職が育つことが願っています。

心も持っている

吉田士 満